

2026 年 10 月 13 日

報道機関 各位

国立大学法人東北大学

東北大学病院、がん支持療法の国際認定を国内で初取得 —患者を支える包括的ながん医療が国際的に評価—

【発表のポイント】

- 東北大学病院が、国際がんサポーターティブケア学会（MASCC）^{（注 1）} より、「MASCC-Designated Center of Excellence in Supportive Care in Cancer」に国内で初めて認定されました。（図 1）
- 本認定は、がん患者に対する高品質かつ包括的なサポーターティブケア（支持療法）を提供する医療機関を認定するものです。
- 緩和医療科、口腔支持療法科をはじめ、多職種連携によるサポーターティブケアを含めた包括的支援体制が、国際的な評価を受けました。

【概要】

サポーターティブケア（がん支持療法）とは、がんの治療に伴う副作用や合併症、精神的苦痛などを予防・軽減し、患者の生活の質（QOL）を維持・向上させるための包括的な医療ケアです。

東北大学病院は、国際がんサポーターティブケア学会（Multinational Association of Supportive Care in Cancer: MASCC）より、がんサポーターティブケアに卓越した医療機関として「MASCC-Designated Center of Excellence in Supportive Care in Cancer」に国内で初めて認定されました（認定期間：2026 年～2029 年）。本認定は世界基準のサポーターティブケアを提供する医療機関を証明するものです。

東北大学病院では、緩和医療科、口腔支持療法科をはじめとする各診療科と多職種が連携し、がん治療前から治療中、治療後まで継続的に患者を支援しています。今回の認定では、こうした包括的な支援体制に加え、診療の質の向上や人材育成、研究に関する取り組みが評価されました。

今後は、今回の認定を契機に、がん支持療法の質の向上および他の医療機関との連携を進め、患者が安心して治療を受けられる支援体制の充実に取り組みます。

【詳細な説明】

研究の背景

近年、がん治療の進歩に伴い、抗がん剤治療や放射線治療などを安全に完遂し、患者の QOL を高めるための「サポーターティブケア（がん支持療法）」の重要性が急速に高まっています。

東北大学病院では、緩和医療科や口腔支持療法科をはじめ、各診療科・多職種が連携したがんサポーターティブケア体制を構築してきました。

評価された内容・取り組み

MASCC による Center of Excellence (CoE) 認定審査では、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、歯科衛生士、栄養士、心理職等の専門職が連携した包括的ケアの実践や、臨床ガイドラインに基づく高品質な症状管理が評価されました。

また、サポーターティブケア領域における人材育成や、論文発表などによる研究成果の国際的な発信に加え、患者を中心に治療前から治療中、治療後にわたる一貫した QOL 向上の支援も評価されました。

今後の展開

東北大学病院は、今回の国内初の MASCC CoE 認定を契機として、日本におけるがんサポーターティブケアのさらなる質の向上と臨床プロトコル^(注2)の高度化を進めます。また、学内にとどまらず地域医療機関や国内外の施設との連携を強化し、がん患者が安心して最適ながん治療を受けられる支援体制の更なる普及・発展に貢献します。



図 1. MASCC Center of Excellence 認定証

【用語説明】

- 注1. 国際がんサポーターズケア学会（Multinational Association of Supportive Care in Cancer: MASCC）：1990 年設立。カナダに本部を置き、世界 80 カ国以上の多職種（医師・看護師・薬剤師等）が参加する国際学会。がん治療に伴う副作用や症状を和らげる「サポーターズケア（支持療法）」の改善に取り組み、国際的な標準治療ガイドラインの策定を行っている。
- 注2. 臨床プロトコル：診療を進める際の手順や方法を定めたもの。

【問い合わせ先】

（取り組みに関すること）

東北大学病院 緩和医療科

教授 井上 彰

TEL: 022-717-7366

Email: akira.inoue.b2@tohoku.ac.jp

東北大学病院 口腔支持療法科

准教授 瀬名浩太郎

TEL: 022-717-8327

Email: kotaro.sena.c7@tohoku.ac.jp

（報道に関すること）

東北大学病院 広報室

TEL: 022-717-8032

Email: press.med@grp.tohoku.ac.jp